

堤正勝編
兒訓必讀

卷一

110

176
3
130

大日本教育會館
一九四
四架
三五號
六册

69

B I
62



學問

明治十九年六月四日



見訓



必讀卷一

東正堤 正勝編

ことものつとめ

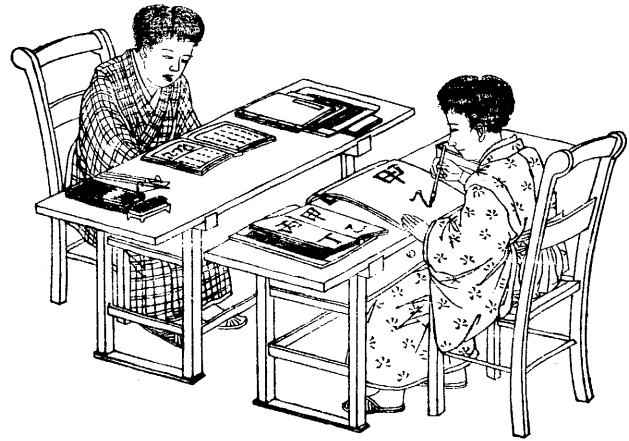
だいにしんのころは

○てならひがくも

見川必讀

んは。をさ
なまひと
のつとめ
なり。
○ひまを

童子訓



強勉

をしみて。がくもん
をつとむべし。
○あさはやくたき。
しよをよむべし。
○まいにちかへり

大和俗訓

林子平父兄訓

よみをつとむべし。

童子訓

○しよをよむこと

は。ねこたることな

かれ。

林子平父兄訓

○ねこたればはか

ゆかず。

大和俗訓

○むねまきのことを

して。ひをつひやす

べからず。

全上

直正

身訓必讀

卷一

三

金澤堂

○をさなきひとは

こゝろすなほなる

べし。童子訓

○まがれることを

なすことなかれ。禮記

行言

○わざはひはくち

よりたこる。諺草

○ことばはすくな

きをよしとす。童子訓

○ひじのきらふこ

身訓必讀

卷一

四

金澤堂

とはいふべからず。

大和俗訓

○ひとのなりみて。

わがなりなほせ。

心學

道話

節制

○かひぐひはすま

じきことゝせよ。
林子

平父兄訓

だいニ ち、は、に

つかふるこゝろに

○わがみはち、は

よりうく。初學訓

○ち、は、のねん

は。やまよりもたか

く。うみよりもふか

し。童子訓

○ち、は、につか

ふるはだいいちの

つとめなり。全上

○よくち、は、に

つかふる
 をかうと
 いふ全上
 ○かうを
 つくすは



みをおさむるのも

となり。孔子家語

だい三 きやうだい

のあひだのころに

○きやうだいはり

やうてのごとし。

諺草

○きやうだいのあ
ひだはあつくした
しむべし。
勢免天波草

○いかなることあ
りともあらうふべ
からず。
初學訓
○たがひにうらみ
いかることなかれ。

童子習

だい四 ともだちに

まじはるこゝろに

○ ともだちにまじはるにはしんじつ

をだいいちとす。

朱子家訓

○ よきことをすゝ

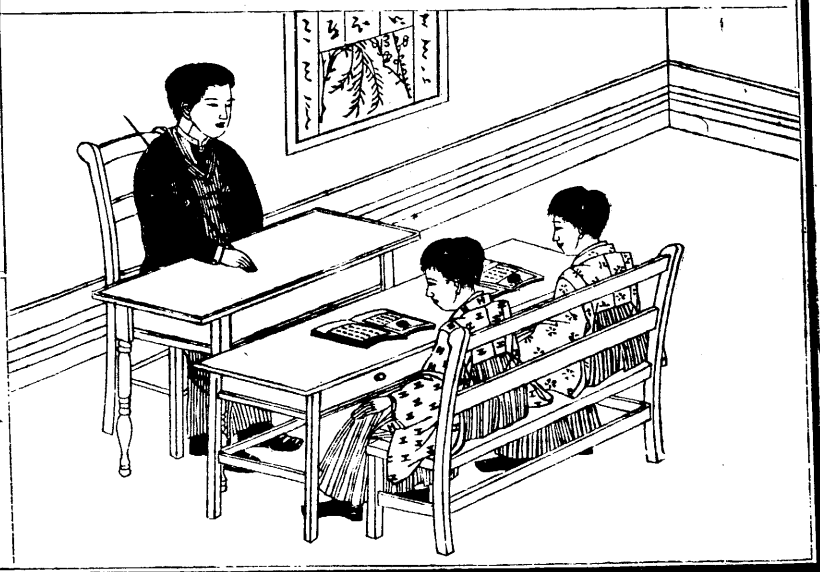
めてなさしむるは。

ともだちのみちな

り。孟子

○よきともたちと
 あろべばあしきこ
 じをなさず。童子訓
 だい五 さはふ
 ○ぎやうぎをた

しくすべ
 し。林子平父兄
 訓
 ○まなび
 ならふと
 きはかた



兒童訓必讀卷一 金港堂

ちをたゞしくして
げふをうくべし。新日

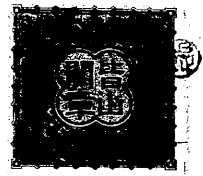
館童子訓

○しよもつのうへ
をこゆべからず。童子訓

兒訓必讀卷一終

價五錢

明治十九年二月廿六日版權免許



編者并
出版人

大賣捌

賣捌

東京府士族

堤

正勝

麹町區飯田町六丁目十九番地

東京本町三丁目十七番地

金港堂原亮三郎本屋



大阪北久寶寺町四丁目

金港堂原亮三郎支店

岐阜

金港堂支店

各府縣下代理大賣捌所